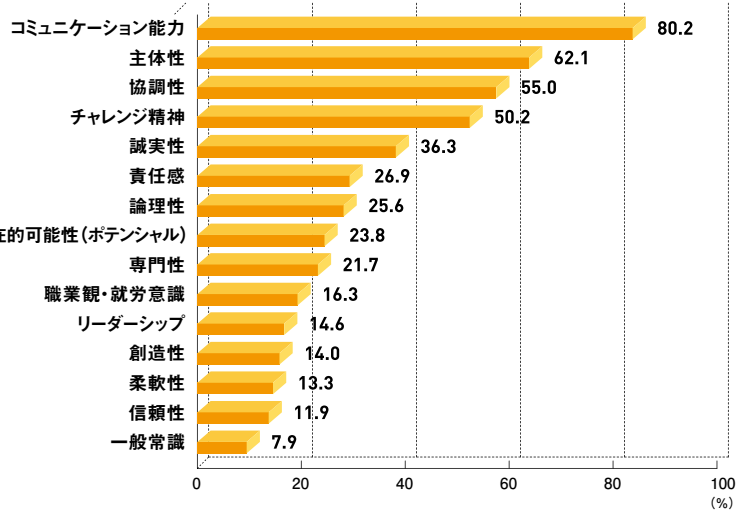


# DATA 02

自分なりのキャリアを築くために  
**雇用と働く人**  
の実態を知っておこう

## 「出身校」より「コミュニケーション能力」

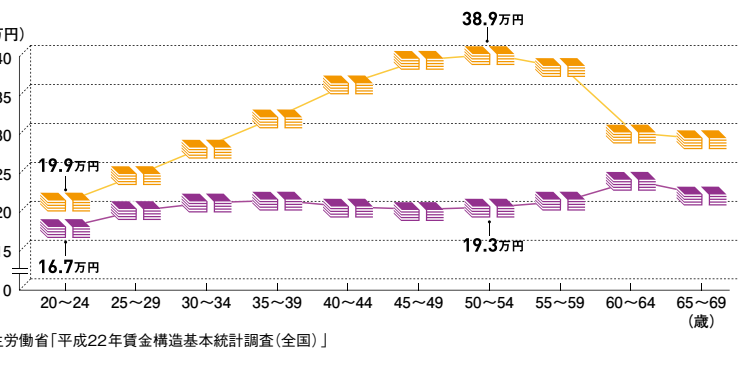
### 【企業の求める人材】



日本経済団体連合会「新卒採用(2011年3月卒業生)に関するアンケート調査結果」(25項目から5つ回答/上位15項目を抜粋)  
大学等新卒者の採用において企業が重視することをたずねたアンケートで、最も多かった回答は「コミュニケーション能力」。このほか「主体性」「協調性」「チャレンジ精神」などが上位にあがっている。「出身校」(3.7%)、「所属ゼミ/研究室」(1.0%)といった所属に関する回答は少なく、あくまで「本人」が問われているようだ。

## 壮年期は特に大きくなる賃金の開き

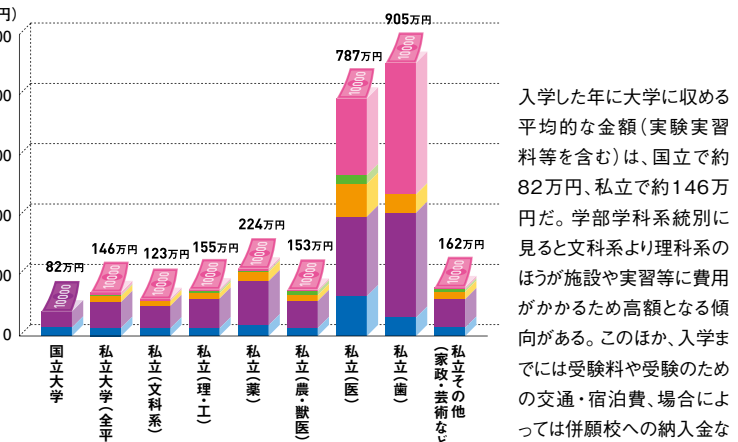
### 【正社員と非正社員の賃金】



厚生労働省「平成22年賃金構造基本統計調査(全国)」  
正社員と非正社員(契約社員・派遣社員など)の1カ月の賃金を比較してみると、年齢によって状況が異なることがわかる。両者の差は若い層では小さいが、年齢が上がるにつれて拡大。50～54歳を比べると、正社員の収入は非正社員の約2倍。職に就いた時点だけでなく、長期的にみた収入状況も留意しておきたい。

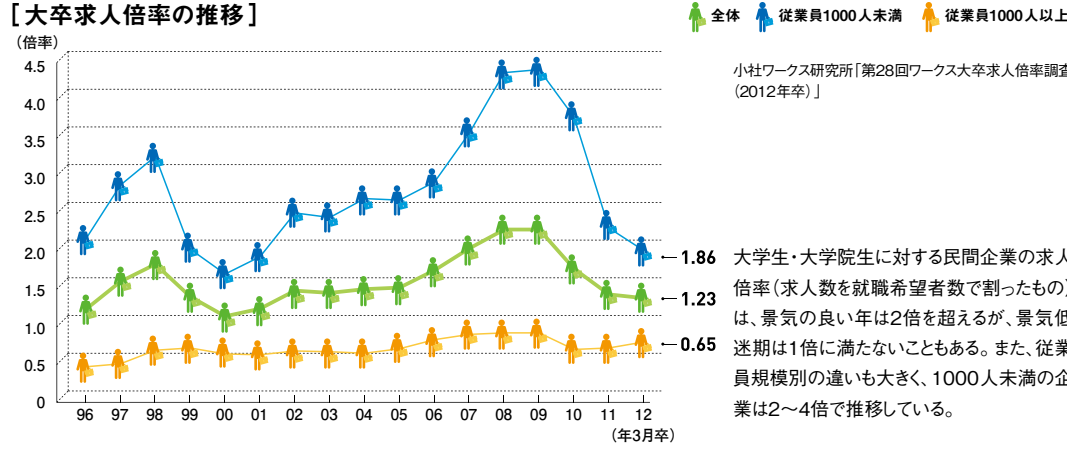
## これだけ違う。国立vs私立、文系vs理系

### 【大学の初年度納付金】



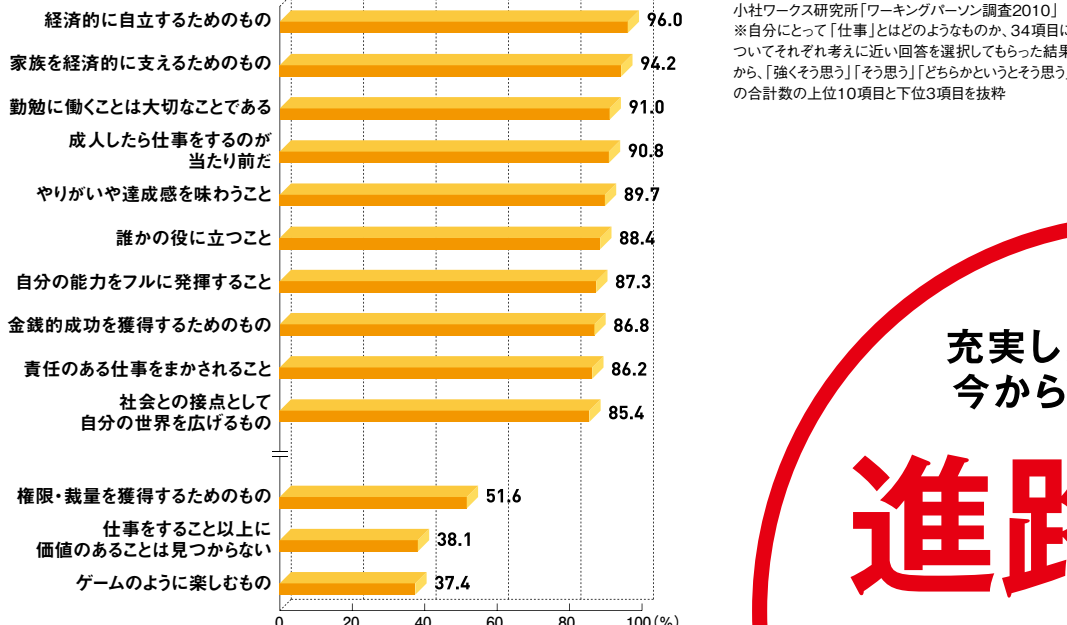
文部科学省「私立大学の平成22年度入学者に係る学生納付金等調査結果」(総務部)  
※国立大学は標準額、一万円未満を四捨五入  
クラス担任のための Career Guidance vol.11

## 景気に左右される求人倍率。企業規模でも差



## “生活のため”だけに働いているのではない?

### 【働く人の仕事観】



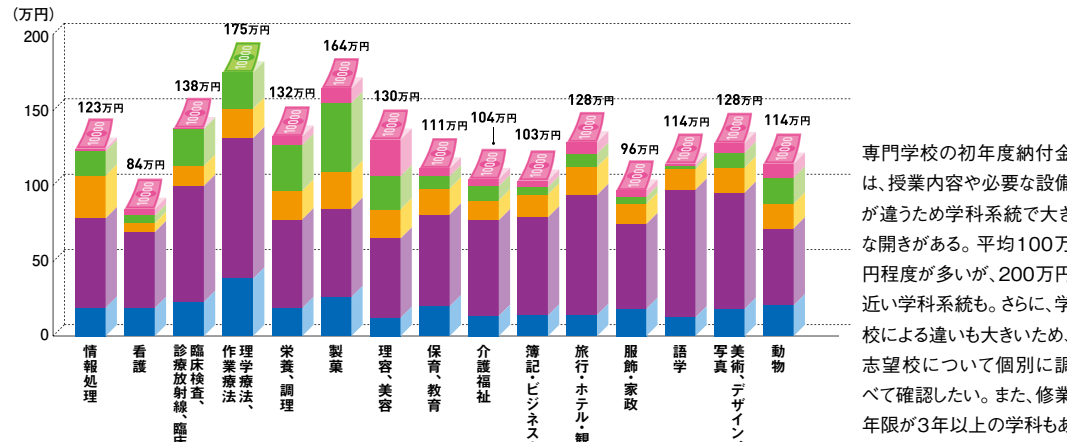
社会人に、自分にとって仕事とはどのようなのかを問くと、「経済的に自立するためのもの」など生活維持の要素、「やりがいや達成感を味わうこと」など自己実現の要素、「誰かの役に立つこと」など社会貢献の要素など、幅広い考えをもって働いていることがわかる。

## DATA 03

### 保護者と共にチェック 進学費用 を見積もっておこう

## 専門分野により学納金に約100万円の差

### 【専門学校】の初年度納付金【

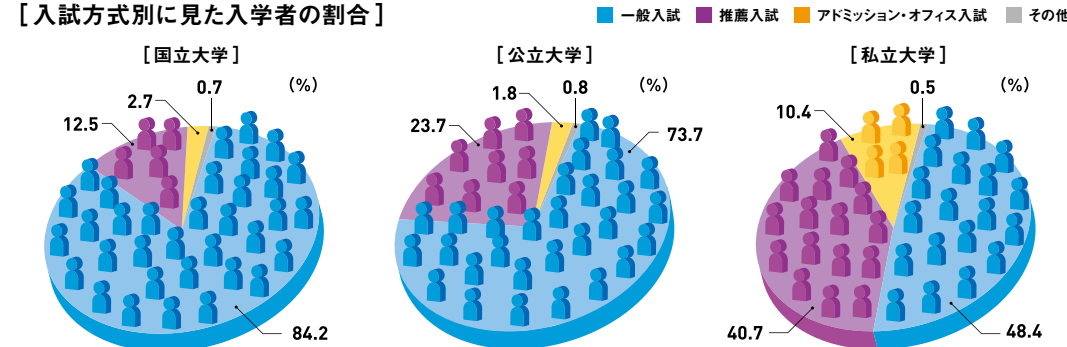


東京都専修学校各種学校協会「平成23年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程(専門学校)平均(総務部)より抜粋  
※1万円未満を四捨五入

# 進路環境 DATA 2012

充実した未来のために  
今から知っておきたい

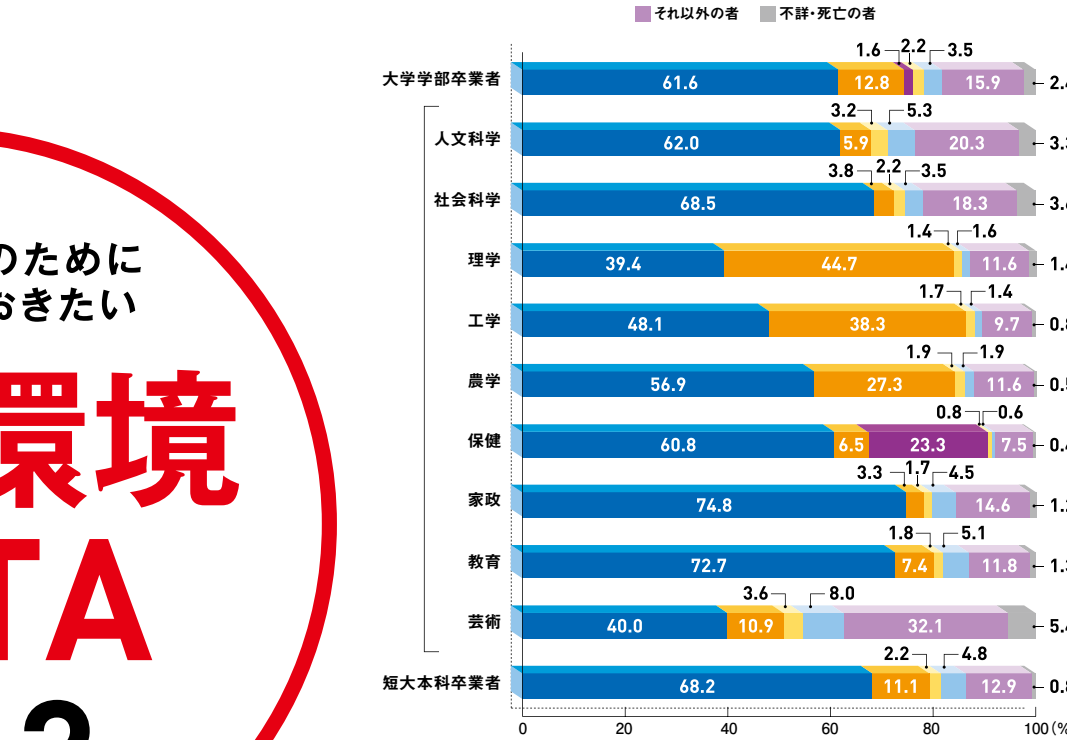
## 私人大では約半数が推薦・AO入試で入学



文部科学省「平成23年度国立公私立大学入学者選抜実施状況」より集計  
※「その他」は専門学校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女入試、中国引揚者等子女入試の合計  
一般入試での入学者が、国立大学では約8割、私立大学では約5割。私立は推薦入試やアドミッション・オフィス(AO)入試による入学者の割合が大きい。これらは面接や小論文などにより意欲や適性、高校時代の実績をみるもので、AO入試は夏から、推薦入試は秋から始まる。早めに志望校の入試方法を調べて対策しておきたい。

## 理系に目立つ大学院進学

### 【大学・短大卒業後の進路状況】



文部科学省「学校基本調査」(2011年3月卒業生について)  
※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職しつづ進学した者を含む)  
※「それ以外の者」とは、家事の手伝いなど就職でも「大学院等への進学者」や「専修学校・外国の学校等入学者」等でもないことが明らか  
2011年3月大学卒業生全体における大学院等進学者の割合は1割強、就職者の割合は約6割。ただし、状況は学科系統によって異なり、理学系統の進学者44.7%をはじめ、理系では進学して研究を続ける人が少ない。学科系統の特性をふまえ、大学進学の際に先ほど見通した将来設計をしておきたい。

## 学費以外にも年間数十～百数十万円必要

### 【大学生の年間生活費】

区分	自宅		下宿・アパート・その他	
	国立	私立	国立	私立
収入	家庭からの給付	623,400	1,058,200	1,186,200
	奨学金	242,300	386,500	372,200
	アルバイトほか <sup>※1</sup>	354,100	407,300	290,900
	合計	1,219,800	1,852,000	1,849,300
支出	授業料など学費 <sup>※2</sup>	569,300	1,176,600	570,900
	課外活動費	43,100	37,600	49,200
	通学費	102,900	106,200	13,700
	小計(学費)	715,300	1,320,400	633,800
	食費	104,900	96,800	277,100
	住居・光熱費	-	-	511,700
	その他 <sup>※3</sup>	265,400	275,500	287,200
	小計(生活費)	370,300	372,300	1,076,000
合計	1,085,600	1,692,700	1,709,800	

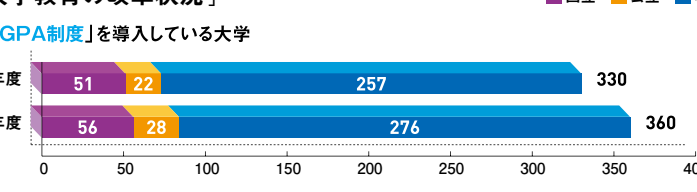
日本学生支援機構「平成22年度学生生活調査」(大学・昼間部)より抽出  
※1:アルバイト、定職収入、その他 ※2:授業料、その他の学校納付金、修学費  
※3:保健衛生費、娯楽・好費、その他の日常生活費  
学費のほか食費や住居費等も含めた大学生の年間生活費(支出)は、「下宿・アパート等の私立大学生」が最も高額で約236万円。これは平均値なので、学部や住む地域によってはもっとかかる場合もある。また、収入の多くは家庭から得ているが、奨学金やアルバイトでまかなう割合も小さい。

## DATA 01

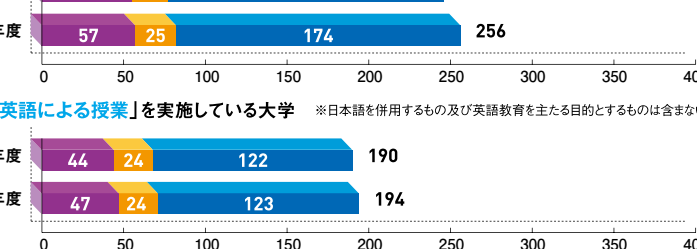
# “入学がゴール”じゃない！ 大学・短大・専門学校 の最新状況を把握しよう

## “国際標準”を意識した改革が進行

### 【大学教育の改革状況】



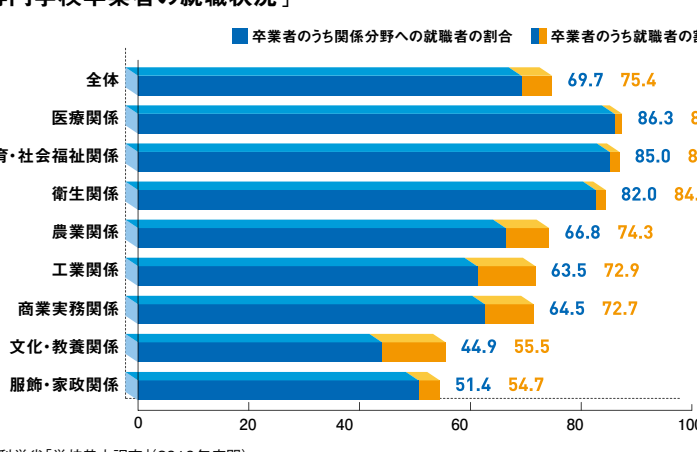
### 【英語による授業】を実施している大学



文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」(平成21年度)  
東京大学が欧米で標準的な秋入学を検討しているが、それ以外にも各大学は国際化に力を入れていく。例えば、米国等で一般的な成績評価方法で海外留学の際にも国際的な学力指標として有効な「GPA制度」、海外留学を後押しする国内外大学等と交流協定による単位互換制度、語学教育以外で英語による授業を実施する大学は着実に増えている。

## 医療関係の就職率は9割近く

### 【専門学校卒業者の就職状況】



文部科学省「学校基本調査」(2010年度間)  
専門学校卒業者に占める就職者の割合は75.4%(2010年度間)。単純比較はできないものの、大卒者の就職率61.6%(2011年3月卒)を上回る数値となっている。学んだ内容と関係する分野への就職率が高いのも特徴だ。特に医療関係や教育・社会福祉関係は就職率、関係分野就職率とも高いが、分野によって状況が異なることも知っておこう。

## 条件は厳しいが、無利息貸与の奨学金もある

### 【日本学生支援機構奨学金制度の概要】

種類	貸与月額(2011年度入学者)	選考	備考
第一種奨学金 (無利息)	大学	【国立】自宅:4万5000円、 自宅外:5万1000円 【私立】自宅:5万4000円、 自宅外:6万4000円	特に優れた学生および生徒で経済的理由により著しく修学困難な者に貸与(学力基準は大学・短大の場合は高校2～3年の成績が3.5以上、専門学校の場合が同3.2以上、年取・所得上限額の基準もある)
	短大・専門学校	【国立】自宅:4万5000円、 自宅外5万1000円 【私立】自宅:5万3000円、 自宅外:6万円	
	学校の種類・国・公立・通学形態にかかわらず、貸与月額3万円を選択することができる		
第二種奨学金 (在学中は無利息、卒業後年利3%を上乗せする利息付)	3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択(12万円を選択した場合に限り、私立大学・医学・歯学課程は4万円、私立大学・獣医学課程は2万円の増額可)	第一種奨学金よりゆるやかな基準によって選考された者に貸与	

